

## 会議録（要点記録）

会議名称	令和7年度 第2回小金井市精神保健福祉連絡協議会		
開催日時	令和7年11月19日（木） 9：30～10：56		
開催場所	市役所第二庁舎 801会議室		
出席者等	小高会長、有泉委員（欠席）、菊池委員、坂上委員（欠席）、牧野委員、 執行委員、赤濱委員、鈴木（絵）委員、山岡委員、石川委員、鈴木（澄） 委員、高橋（杏）委員、高橋（正）委員 事務局：自立生活支援課相談支援係長、相談支援係主任		
傍聴の可否	可	傍聴者数	0名
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 目標の進捗状況について（「地域移行支援」の支援状況の報告） (2) 退院促進リーフレットの配布について (3) 精神保健福祉連絡協議会部会で協議された内容について (4) その他 3 次回の開催日について 4 閉会		
会議結果	1 開会 2 議題 (1) 目標の進捗状況について（「地域移行支援」の支援状況の報告） ○事務局 障害福祉計画における今年度の目標は、地域移行支援の利用者5人であるところ、第1回協議会を開催した5月22日時点で、既に2人が地域生活に移行していたことから、本協議会においては、長期入院者3人を地域生活に移行できるよう支援することを目標に設定した。 表の番号2番、40代の女性。一旦、自宅退院となったものの、間もなく再入院。グループホームを目指す方針としたが、本人が躊躇し、具体的な体験利用には至らず。現在は少しずつ身の回りのことを自身で取り組むようになった。 3番の50代女性。アパートへの退院希望が強くあり、入居申込みしたが、入居審査に通らなかった経過があり、アパート探しが難航。このため、改めて支援者からグループホームの利用を検討することを提案している状況。 4番、30代男性。複数のグループホームの見学を経て、近隣市のグループホームの入居に向けて話がまとまりつつあったが、母の反対で白紙に。その後、病状の著しい悪化があり、本人を交えたケア会議にて12月末の地域移行支援の支給決定満了をもって治療に専念することとなった。		

	<p>6番、60代女性。院内で骨折事故があったために一時休止状態となっていたが、治療が終わり支援再開。しかし、地域移行支援の面談で外出する機会があると、病院に戻られた後に興奮状態、不食・不穏というような症状が出たため、病院のほうから面談頻度を月1回程度、院内限定で行ってほしいと要望があったとのこと。</p> <p>7番、50代の男性。令和7年7月より新規で地域移行支援を支給決定。入院歴3年超で、病院のPSWからの提案で地域移行を導入。月に2回の定期面談を通して退院後の居所のイメージづくり中。10月以降、シェアハウスタイプと独立アパートタイプのグループホームの見学に行った。</p> <p>8番、50代男性。入院が3年弱で、病院のPSWより地域移行の提案があったが、入院前に居住していた生活保護受給者向けの無料定額宿泊所以外への退院を希望されず、具体的に退院支援できる準備が整わないという理由で、地域移行支援の導入は白紙となった。</p> <p>9番、70代男性。令和7年9月に新規で地域移行支援を支給決定。市内に自宅があり手厚い支援の提供がありながらも生活破綻を来して入院。自宅への退院は困難であるとの判断。入院後、認知機能の低下も見られていることから、介護保険下の住まいへの退院を支援する方針。</p> <p>10番、40代男性、新規で10月より地域移行支援を決定。同居の父親への暴行があり措置入院となった経過あり。自宅ではなくグループホームに退院というのを目標としていて、10月末にグループホームに退院した。</p> <p>11番、50代の男性。新規で10月より地域移行支援を決定。精神疾患とALSとの合併であるため、グループホームの利用と重度訪問介護を併用するため地域移行支援を利用され、11月にグループホームに入居となった。</p> <p>今年度、年度当初に掲げていた地域移行の目標数5件のうち、現時点で既に5名の方が退院、数字としての目標は達成となっているが、引き続き地域移行支援を利用されている方の支援を推進すると同時に、新たに地域移行を望まれる方へ支援が行う。</p> <p>(質疑)</p> <p>○会長 母親の反対で白紙になった4番は、母親がグループホームへの退院を反対されていたのか。それとも、特定のグループホームへの入居を反対されたのか。</p> <p>○委員 今年の春前辺りから担当している。本人は会社経営でのプレッシャーから統合失調症を発症、他県でホームレス生活を送り、それを家族が連れ戻すことを繰り返していた。退院することとなったが、実家に戻ることを本人が拒否した。その後希望の条件を満たすグループホームが空いたので案内をしたところ、今度は母から拒否された。</p>
--	--

それでも病院からは退院と言われ、結果グループホームに体験宿泊を行うこととした。しかし体験初日に離脱、発見された際「病院に戻してほしい。」と本人が訴え、病院に戻った。今は母から現実的に考えられない支援レベルのグループホームを探してほしいと言われている。ただし本人の体調が悪化したため12月の末日をもって一旦、地域移行支援を終了することとなった。

(2) 長期入院患者向けリーフレットの配布について

○事務局 5月22日に開催した第1回協議会で、「長期入院患者向けのリーフレットの配布について」を議題としA4、2つ折りとし850部作成した。資料2のとおり、今回作成したものを合計142部送付した。医療機関については地域精神保健福祉支援分析データベース(ReMHRAD)をベースに入院先病院を抽出、全病院に連絡をして必要な部数を確認したもの。

○会長 A3からA4に変えた経過は如何に。

○事務局 協議でA4のほうが取りやすいという意見があり採用した。

○委員 送付先の配布部数というのはどのように決めたのか。

○事務局 全病院に連絡し、希望枚数を聞き取った。

(3) 今期の検討事項について

○事務局 第1回部会について。

前年度から継続協議している精神保健福祉に関する課題について、引き続き協議。まとめ資料の中に「不適切な支援」「受入れ拒否」に関する記載があり、具体的な内容について確認。

「不適切な支援」はアンケート結果ではなく、委員からの発言。詳細を確認したところ、精神疾患等が理由であることが支援者に理解されづらいことから「怠けている」「家政婦扱いされる」と支援者が考えられてしまうことで敬遠されてしまうこと。一方、支援対象者は、本来、自力で家事等ができるにも関わらず、支援者が丁寧に手取り足取り支援することにより、かえって能力が低下してしまうことがあること。以上より「不適切な支援」につながる可能性があるとのこと。

「受入れ拒否」については、精神疾患に対し偏見を持つ支援者がいることから、支援要請が来ても受け付けない事業所が多い。また、支援方針やコミュニケーションにも丁寧さを求められ、多くの時間を要する傾向があるなども拒否の事由ではないかとのこと。

対策として、他自治体では、ヘルパー等支援者に対し勉強会を開催し、支援者に理解促進を行い、改善に向けて努力している。

ピアサポートについても議論。ピアスタッフは自身の経験を活かして、相談に乗る、情報を提供する、実際に精神科病院を訪問し退院支援を行う。ピアサポーターは、長期入院者に手紙を書いて退院促進するなどの活動をするを協議。近隣では中野区で既に導入済みであ

り、調査することとなった。

市内の支援機関について、類似団体との比較した資料を提出し、各委員と共有。

第2回部会について。

協議内容として、市内にヘルパー事業所の連絡会が介護保険部門では存在するが、障害福祉部門では存在しないこと。小金井市では事業所の新規立ち上げの規制は行っていないこと。精神疾患のある方のサービス利用について当日キャンセルが比較的多く発生する傾向があること。小金井市の精神障害のある方が活用するホームは一戸建てタイプが多く、定員が少ない傾向があることが話題となった。

また、引き続きピア活動についても話し合わせ、令和7年9月11日に開催された地域生活移行支援事業の会議で初めてピア活動が議題となり、今後課題となる項目になるのではないかと意見も出た。

なお、協議会でも話題に上がった精神障害のある方のヘルパー従事要件、中野区でのピアサポートに関する現状は資料とおり。

第3回部会について。

第2回部会で、長谷川病院で行っているアウトリーチ事業について説明があり、包括システムの構築のヒントになると考えられたため、長谷川病院の担当者を招待した。

事業概要として、原則18歳以上、65歳未満の小金井市民が対象となるが、支援の過程で長谷川病院を受診しないと支援者側に報酬が発生しない仕組みであることもあり、具体的な利用については個別に相談してもらいたいとのこと。一方、近隣自治体の武蔵野市、三鷹市では、市がアウトリーチ事業を予算化し、それを長谷川病院が受託していることから、長谷川病院の受診の有無にかかわらず支援できる体制であるとのこと。

また、ヘルパー不足、地域移行におけるピアの活用を、地域課題として本会に論点に挙げていくことを確認した。

制度の課題として、現状の報酬体系では、ヘルパーの確保・充足は難しいこと、精神障害の方は身近の支援者であるヘルパーから言われた言葉に影響を受けやすい特性があるため、ヘルパー等支援者に精神疾患等を理解してもらえようになるとよいこと、ヘルパーの供給不足から事業所が支援の必要性等を精査（トリアージ）し、ヘルパーに配慮している印象から、特段の配慮をしないとヘルパーが退職してしまう状況があるのではないかと考えられることから、経験あるヘルパーへの支援策などが必要なのではないかとの意見があったこと、障害福祉サービスの家事援助サービスについて、民間家事代行に委託する事例があることが話題になった。さらに報酬に関係ある内容として、家事援助の単価が身体介護と比べると低いこと、また、疾患の関係で直前のキャンセルも多く、その場合、報酬が得られないことが精神障

害のヘルパーの供給が増えないことに影響していると考えられるとの意見もあった。

なお、三鷹市では、対策として行政と社会福祉協議会がメインとなって、ヘルパー初任者研修やケアマネが集まる交流会で精神障害に関する理解促進の講義を行い、それに伴い支援者間では、以前より精神障害に関する理解が広がっているようであるとの情報も提供された。

○会長 説明について質疑等あるか。

(発言なし)

○会長 部会の開催結果なども精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築として、小金井市としてどんな施策に取り組んでいくか協議していく。大きく挙がっているものとしては、ヘルパー支援を精神障害のある方に届けていく仕組みが必要ではないか。次にピアの活用。協議内容の予算化プロセスは。

○事務局 最終的にどの内容を事業化するか今後検討する。

(議論 委員発言要旨)

- ・話し合われたどの事業も必要かつ重要。優先順位を決めるのは困難。
- ・北多摩地域の医療機関の連携、一般救急と精神科で課題があって、精神疾患かつ持病がある患者の受け入れ態勢が不十分だと都から指摘を受けている。
- ・精神障がいのある方の支援については複雑な問題が複合的に絡んでいるので、それぞれを1つずつ見ていくと、より多くの問題になるので、ある種一本化するといいかもしれない。
- ・ヘルパー不足の件、地域の努力にも限界がある。需要と供給がある一方、払える報酬額の上限が決まっていると給与を上げることができない。
- ・他分野も含めて人の奪い合いが始まっている中で、どうしてもヘルパーを選択するという動機が希薄になりがち。
- ・報酬改定が前倒しで来年度あると言われているので期待している。
- ・ピアの活用は今後の地域包括ケアを考える上では避けられないテーマ。
- ・ピアとは、精神障害などの経験を持つ当事者が、その経験を生かして仲間を支える存在のこと。地域移行の促進とピアの活用がこの国の施策として、協議会での地域包括支援の検討の中でも、車の両輪に当たる重要な取組だと考える。ピアの育成等、活動を段階的に進めることで、地域生活支援の質をより高めていけるのではないかと。
- ・ピアの活用というのはしっかりと進めていくべき。ヘルパーに対する研修会など、できることからやるべき。
- ・ピアサポートを小金井市の方がどれぐらい必要としていて、どれぐらいやりたいと思っているのかわからない。実施をするにあたっては、実際に行う方のサポート、その方が負担に思わないようなやり方

	<p>が大事。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピア活用が結局はアウトリーチと人材確保につながっていくのではないか。ガイドヘルパー研修を毎年実施しているが、福祉の仕事初めて行う方にも入りやすい仕事だと考えている。最近、福祉以外の分野で働いている方が、定年退職を機に口コミで聞いて研修を受ける人がいる。また当事者からも問合せがあり、講師とも相談して受講されているという方もいる。いろいろなパターンを想定して、福祉職に携わる人の裾野を広げていけるように就労できる環境を整えられるとよい。</li> <li>・精神障がいのある方を見ていると、ピア活動に参加できそうな方も結構いて、参加することで成功体験を感じ自信もついていくと思うので、そういう場があるといい。</li> <li>・福祉支援の実態についてボランティアで見てもらって、利用者に「思っていたよりもハードルが低い。」と感じてもらいたい。「短時間なら」「育児から就労に復帰する足掛かりにしたい。」という声の中には「就労で報酬を受け取りたくないという。」という方もいる。そのような方をハードル低く呼び込みたい。そのような機会を活用しヘルパー不足、相談支援を整えることが重要だ。行政の支援もあるとよい。</li> <li>・以前「大阪方式」という、実際にピアの方が病院などに出向いていて、外から引っ張る退院支援みたいな対応をしていたことがあった。</li> <li>・ピアについて、居住している自治体で仕事をするプライベートとの切り替えがうまくいかないケースがあると聞いているため、複数の自治体で人材のたすき掛けなどで就労できる仕組みがあるとよい。</li> </ul> <p>(結論)</p> <p>○会長 予算要求、議論に関するイメージが難しいところもあり、近隣の市町村の話など具体例をまとめていただいて、次回の2月にもう一度お諮りするという形で行いたい。</p> <p>7 次回の開催について</p> <p>日時 令和8年2月19日木曜日 午後2時～</p> <p>場所 市役所第二庁舎801会議室</p> <p>8 閉会</p>
提出資料	<p>資料1 「地域移行支援」の支援状況</p> <p>資料2 退院促進リーフレットの配布状況</p> <p>資料3－1 第1回小金井市精神保健福祉連絡協議会 部会 会議録及び資料</p> <p>資料3－2 第2回小金井市精神保健福祉連絡協議会 部会 会議録及び資料</p> <p>資料3－3 第3回小金井市精神保健福祉連絡協議会 部会 会議録及び資料</p>